

令和8年度 学校評価の4点セット

豊後高田市立河内中学校 校長 清輔康一

学校の教育目標	重点目標	重点目標に係る 目指すべき子どもの 姿となる 達成指標	分担	達成指標を達成する または近づくための 重点的取組 ※到達像不要	重点的取組に係る 具体的な 取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で	学習指導要領が目指す 資質・能力との関連			担当
						知識 及び 技能	思考 力 ・ 表現 力 ・ 判断 力 等	学び ・ 人間 性 か う	
基礎力を基に多様な人々と協働し、夢に挑戦する生徒の育成	「考え・感じ・想像し・表す」ことの育成	①定期テストの個人目標値達成生徒70%以上 ②「授業に積極的に参加できている」生徒：肯定70%以上 <長期> ◆市学力調査において基礎の目標値を超えた教科ある生徒60%以上	学校	個別最適な学びの充実	授業者は、毎時間、生徒が習ったことをOUTPUTする時間を設定する。その際、個別指導を実施する。 【個別教育の徹底】	◎	◎	○	研究主任・学力向上・特別支援C
					授業者は、努力を要する生徒への手立てを毎時間講じる。 【個別教育の徹底】	◎	○		
					授業者は、個別の指導計画・個別の支援計画を作成し、日常の授業とリンクさせる。また、検証・改善を毎月実施する。 【個別教育の徹底】	○	○	◎	
			家庭	家庭学習の充実	保護者は、生徒が毎日、規則正しい生活を送れるようにする。(早寝・早起き・朝ごはん)	○	○	◎	保護者 連携
					地域	学習支援の充実	地域は、ゲストティーチャーや学習サポーターとして学校行事や体験学習の支援を行う。	○	○
			学んだことを活用し、表現する力の育成	①「授業や集会などで自分の考えを伝えることができる。」生徒：肯定70%以上 ②定期テストの文章記述式問題において、問題数の半分以上解答を記入している生徒80%以上			学校	表現活動の充実	教職員は、行事や集会において自分の考えや思いを発表する場を設定し、一人一人に支援を実施する。
	授業者は、道徳科の授業で「主として集団や社会との関わりに関すること」の内容や人権学習を毎月1回以上実施する。				◎	○			道徳推進
	教科担当者は定期テストで記述式の問題を1割以上組み込む。	○			◎				学力向上
	家庭	自己コントロール力の向上			家庭はSNS等のルールを決め、月に1回程度メディアコントロールの取り組みを行う。	○	○	◎	保護者 連携
					地域	生徒の努力の過程を認め励ます活動の充実	地域は、公開日や行事等において、生徒を励ます声掛けやメッセージを発信する。	○	○
	自他の思い・考えを理解し協働する力の育成	①「学校は居心地が良い。」生徒：肯定60%以上 ②「話し合いの中でよりよい解決策を考えようとしている」生徒：肯定70%以上 ③「協力して目標をやり遂げ、達成感・充実感をもっている。」生徒：肯定70%以上					学校	SSTの充実	教職員は、人間関係づくりプログラム等のSSTを週2回以上実施する。
			協働活動の充実	教職員は、生徒会行事や学校行事等で「成果と課題を実感する振り返り」を必ず実施する。		○			◎
共感的人間関係の構築				授業者は、生徒指導の3機能を意識した授業づくりを、毎時間行う。(自分で考える→発表する→良さを共感する)		○		◎	研究主任 学力向上
家庭			生徒の努力の過程を評価し、認める場の設定	家庭は学校公開日や学校行事を参観し、感想・意見・生徒達へのメッセージを記入し、生徒達への支援につなげる。		○	◎	保護者 連携	
				地域	生徒と共に考える授業の実施	学期に1回程度、地域の方はワークショップや学活の授業において、生徒と共に授業に参加し、意見の交流を行う。	○	○	○